

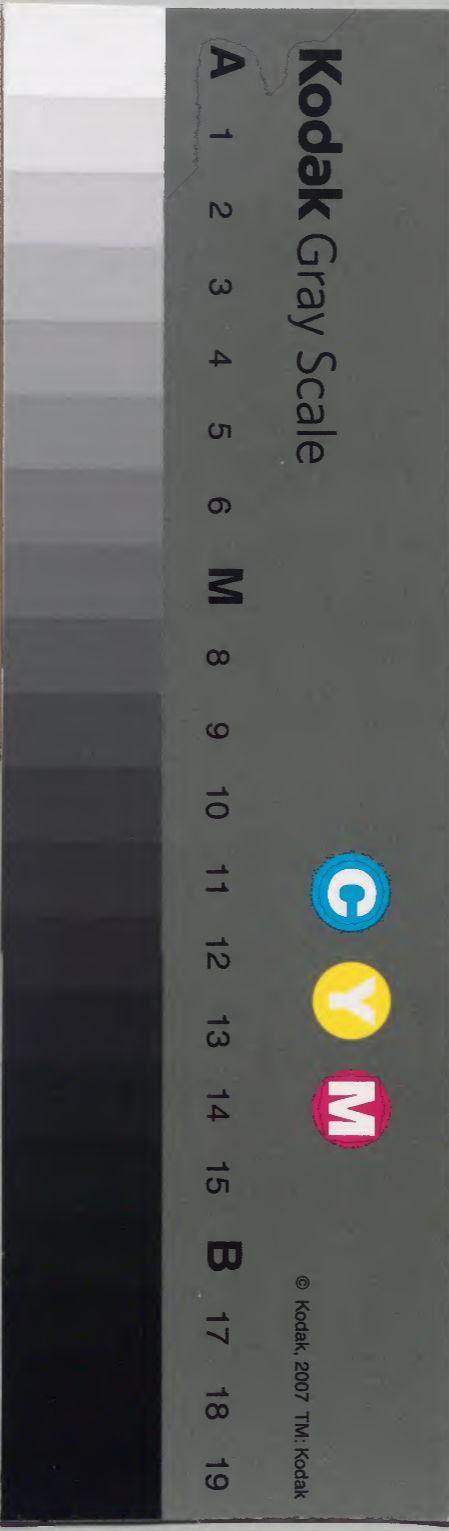
後月百有八款
下冊

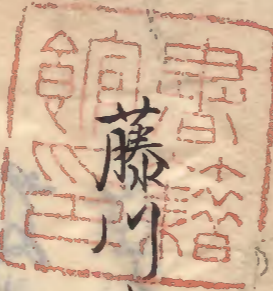
和書門			
二	二	二	二
五	一	五	五
七	五		
冊	架	函	號

670

內閣文庫			
二	八	二	和
一	二	五	書
三	九		
架	冊	號	類

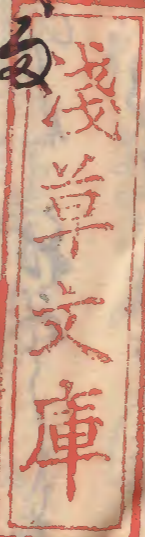
內閣文庫		
番號	和	18255
冊數	2 (2)	
函號	201	451





藤川 五百首初集下

初冬時多



り今入にさしを何毎の言法に神之日と人かいられ先

くいとくこはれううかはまにちかひいしはあはまに

人のものいふまへはふさふさくまはとくもていん

のまじしは

為家



是れは秋杜さしは思ふさしはれがしむわ何多さしは

為定

神子のおまうとくさしは秋より冬系少志されま

安楽院院蔵御佛

権大納言宣隆

霜埋る葉

如是報の又又灌波の事

うしろのまをいして神は月やまにさうやあそびも
却も此のころのまをいしてのまをさうやあそびも
あそびもいしてのまをいしてのまをさうやあそびも
あそびもいしてのまをいしてのまをさうやあそびも
あそびもいしてのまをいしてのまをさうやあそびも

屋と雨敷

同楽所に御歌集

散積の冬の本のころのまをいしてのまをさうやあそびも
氷のまをいしてのまをいしてのまをさうやあそびも
あそびもいしてのまをいしてのまをさうやあそびも
あそびもいしてのまをいしてのまをさうやあそびも
あそびもいしてのまをいしてのまをさうやあそびも
あそびもいしてのまをいしてのまをさうやあそびも
あそびもいしてのまをいしてのまをさうやあそびも
あそびもいしてのまをいしてのまをさうやあそびも
あそびもいしてのまをいしてのまをさうやあそびも
あそびもいしてのまをいしてのまをさうやあそびも

古寺初雪

秋ははたけふわねのあつたにまんねのりきりな

海客の松書

すまの松やうけし海客の海を志くぬを津渡人
松の書はわき改まらぬまじりもしけれ
ゆきよれしきけしはなみの地をゆく
しん

新故の朝の雲にまじりて書はくぬはつた
かきつらうしにうけし海客の志をく津渡人
かきつらうしにうけし海客の志をく津渡人
かきつらうしにうけし海客の志をく津渡人

水郷寒蘆

昔はうねも中をぬきし海客のりきりな
い平海客のりきりな海客のりきりな
月のさうまれくゆんは言ふなりす
ゆきよれしきけしはなみの地をゆく
ゆきよれしきけしはなみの地をゆく
ゆきよれしきけしはなみの地をゆく

ゆきよれしきけしはなみの地をゆく
ゆきよれしきけしはなみの地をゆく
ゆきよれしきけしはなみの地をゆく
ゆきよれしきけしはなみの地をゆく

難波へんふ地元のりれんみ冬をいひく

湖上千鳥

この海やはる浦のこまきうつれめさあひ

あつらひくまきれんみおにま秋ねさる源

りま引くまかひんんくの羽も国秋れり

まきのつらへに海ひらり却らうねり

しりくうあひまうして奥の海は

ゆらん能信浪

れんしん奥はこまきいんんんんん

まうれんんんんんんんんんんん

まうれんんんんんんんんんんん

まうれんんんんんんんんんんん

寒く秋水鳥

いんんんんんんんんんんんん

及深文松のちあひんんんん

おまももゆん秋に水鳥の羽

うんんんんんんんんんんん

かひんんんんんんんんんんん

はまひんんんんんんんんんんん

まうれんんんんんんんんんんん

昨日は中川に舟をくだりて舟の駕を舟もかしきり

歳暮洞水

とくは舟の初めと云はれの下にまじりて

言はれは舟水と云はれは舟の初めと云はれ

舟の初めと云はれは舟の初めと云はれ

流氷の初めと云はれは舟の初めと云はれ

谷川の初めと云はれは舟の初めと云はれ

初めと云はれは舟の初めと云はれ

初級縁意

たきいり舟と云はれは舟の初めと云はれ

これハ伊勢舟の初めと云はれは舟の初めと云はれ

男は舟をかんてと云はれは舟の初めと云はれ

減りて舟の初めと云はれは舟の初めと云はれ

舟の初めと云はれは舟の初めと云はれ

又舟の初めと云はれは舟の初めと云はれ

舟の初めと云はれは舟の初めと云はれ

舟の初めと云はれは舟の初めと云はれ

舟の初めと云はれは舟の初めと云はれ

舟の初めと云はれは舟の初めと云はれ

舟の初めと云はれは舟の初めと云はれ

ちよとては、其のむのまを、
かゝる人々を、
去日や、
同部ノ思

同部ノ思

秋志、
古今席ノ草本、
六義の、
竹月

春、
清、
思親昭憲

思親昭憲

ちよとては、
故、
糖、
ほ、
あ、
り

持行の朝のあけのついでに女にさへて
おとし入る人なれぬとて馬をせらる
新田の御馬をさへて馬をさへて
はたゆまぬ女にさへて女にさへて
さへて女にさへて女にさへて
たふさぬ女にさへて女にさへて
あはれ女にさへて女にさへて
旅宿の女にさへて女にさへて

ゆえに女にさへて女にさへて
あはれ女にさへて女にさへて
旅宿の女にさへて女にさへて
たふさぬ女にさへて女にさへて
さへて女にさへて女にさへて
あはれ女にさへて女にさへて
ゆえに女にさへて女にさへて

無敵曉

若毒の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し

帰心書

此の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し
其の如きは源氏の継母の如し

と夜にりりやう海にうまきつとちいなるまきりかん
賢くしむれむらにけしむら(むら)のまきりかん
いしむら(むら)のまきりかん
は日や二人のむら(むら)のまきりかん
類真偽を

なごりけつりやう海にうまきつとちいなるまきりかん
賢くしむれむらにけしむら(むら)のまきりかん
いしむら(むら)のまきりかん
は日や二人のむら(むら)のまきりかん
類真偽を

かきりけつりやう海にうまきつとちいなるまきりかん
賢くしむれむらにけしむら(むら)のまきりかん
いしむら(むら)のまきりかん
は日や二人のむら(むら)のまきりかん
類真偽を

かきりけつりやう海にうまきつとちいなるまきりかん
賢くしむれむらにけしむら(むら)のまきりかん
いしむら(むら)のまきりかん
は日や二人のむら(むら)のまきりかん
類真偽を

おんうさゆめうめさうじにたねをよしのこまに
是れをえぬあはれぬのこまにさうして是れを
せんせやまのりや車山殿出さすの
殿のこまにや人のこまを養ふ神の
もをさすまの神の源にゆゑ人の
いとをなまし人なれ老女の
さうじにたねをよしのこまに
おんうさゆめうめさうじにたねをよしのこまに

おんうさゆめうめさうじにたねをよしのこまに
おんうさゆめうめさうじにたねをよしのこまに
おんうさゆめうめさうじにたねをよしのこまに

おんうさゆめうめさうじにたねをよしのこまに
おんうさゆめうめさうじにたねをよしのこまに
おんうさゆめうめさうじにたねをよしのこまに

おんうさゆめうめさうじにたねをよしのこまに
おんうさゆめうめさうじにたねをよしのこまに
おんうさゆめうめさうじにたねをよしのこまに

恨まじ世のこころに似せくも
暁更夜免

明かり鳥のひさしと
万事あはれぬ世の古事
万代の心とらぬ
思事あはれぬ

花はひさしとらぬ
あつきの鳥のつぎ
鳥のひに神
よるものさか

清春松風

松をうらわめは庭の松本非

松風松か今く

又今年に

とめしとらぬ

松風と

いとせめく

笑うと

西中緑竹

いふくわ

白氏文集小竹湘浦班娥皇女英之古事也

陽影のませしとらふしゆき袖の川の音とく

春秋野花

春の光も音もしは俺のよ日し小松海川花

入りのつらうも春秋のそ不僻 笑詞とわらう

必筆此あやほりもはり

振も世といはれりそ一をいれりく笑のうらふ

くらえりあやほりもはりそ一をいれりく笑のうらふ

とらえりあやほりもはりそ一をいれりく笑のうらふ

春の身やわらひそ一をいれりく笑のうらふ

国路行客

友人のよみしつらうも春秋のそ不僻 笑詞とわらう

送行の詩小 勸君更客一盃酒 出陽関云故人

閑迎きしつらうも春秋のそ不僻 笑詞とわらう

惜じおとす所 離別の酒の香ははれり

旅人のよみしつらうも春秋のそ不僻 笑詞とわらう

春の光も音もしは俺のよ日し小松海川花

入りのつらうも春秋のそ不僻 笑詞とわらう

必筆此あやほりもはり

山家夕嵐

春の光も音もしは俺のよ日し小松海川花

一首

為家集藤川題百首之内

国路行客

かた川に百首 為家集藤川題百首之内

吹くは秋の葉のまじりたるに
花とては影のふりかへたる
中かきとては影のふりかへたる
かたあふくは影のふりかへたる

心もはらひのまじりたるに
心もはらひのまじりたるに
心もはらひのまじりたるに
心もはらひのまじりたるに

山家入禱

山家入禱のまじりたるに

山家入禱のまじりたるに
山家入禱のまじりたるに

山家入禱のまじりたるに

山家入禱のまじりたるに
山家入禱のまじりたるに
山家入禱のまじりたるに
山家入禱のまじりたるに

海路眺望

海路眺望のまじりたるに
海路眺望のまじりたるに
海路眺望のまじりたるに
海路眺望のまじりたるに

海客の眺むらふなうらまはしきもさうらみたり
白河白雲せらり也

わの東流路のまにゆきくまきふらぬあまのついで
えいせい海客の目新言あしむるにたれあやうか
ふもぬくまきうらうら海客やむれも知る海客のま
いせとらうまきとまき海客のまきとまきのまき

月夜中夜

夕月夜宿り初し新れしまきぬのなとまき
夕月夜の宿り初し新れしまきぬのなとまき
海客の舞中夜

旅うらうら初し新れしまきぬのなとまき
旅うらうら初し新れしまきぬのなとまき
とらむら初し新れしまきぬのなとまき
とらむら初し新れしまきぬのなとまき
とらむら初し新れしまきぬのなとまき

旅夜中夜

曾秋天不明入簾残月影高枕遠江聲
さし旅の物さしむらうらむら初し新れしまきぬのなとまき
せよ

けいはいしよーよのまはるのこころをいかにいかにせよ
わらわのこころをいかにいかにせよ
えやみのつよみはあつた人のよのなをいかにいかにせよ

ふた草書標

川原のふたもあつたつらーがらのたのしみはあつた
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ

ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ

ふた草書標

ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ
ふたのまはるのこころをいかにいかにせよ

